

地域再生計画 事後評価表

「ひとに優しい^{もり}森林づくり・^{まち}都市づくり交流促進計画」

(道整備交付金事業)

平成23年12月

今 治 市

地域再生法に基づく地域再生計画の事後評価

1. 地域再生計画の概要

計画名称	ひとに優しい ^{もり} 森林づくり・都市 ^{まち} づくり交流促進事業
作成主体	愛媛県・今治市
計画区域	今治市の全域
計画期間	平成 17 年度 ～ 平成 21 年度
支援措置	地域再生基盤強化交付金（道整備交付金）
認定日等	平成 17 年 6 月 17 日
変更日	平成 18 年 3 月 31 日、平成 19 年 3 月 30 日、平成 20 年 3 月 31 日
計画主旨	平成 17 年 1 月 16 日に 1 市 11 町村が合併した今治市は、市域の約半分を森林が占めており、先進的な森林整備手法の導入により、公益的機能を高い水準で維持してきた。近年では、一般市民の間でも森林の持つ環境保全機能と保健休養機能等の多面的な機能に対する認識が広がっていることから、こうした森林の機能を活かし、基幹林道と山間地と市街地を結ぶアクセス道となる市道整備を一体的に実施し、森林と人との豊かな関係の創出と新しいまちづくりにおける地域間交流、一体感の醸成を目指す。

2. 地域再生計画に記載した目標の達成状況

	指標名	従前値	実績値	評価	所見
目標 1	林業振興及び森林機能の改善 (間伐実施面積の 6% 増加)	30.66ha (H16 年度)	46.39ha (H21 年度)	○	計画どおり整備を行い、当初の目標を達成することができた。
目標 2	市道整備による山林とのアクセス向上（離合困難箇所 4 路線の解消）	4 箇所 (H16 年度)	4 箇所 (H21 年度)	○	概ね計画どおり整備を行い、当初の目標を達成することができた。
目標 3	森林レクリエーション機能の拡充（森林エリア、里山林地区への入込み数 10% 増）	427,779 人 (H16 年)	487,405 人 (H22 年)	○	計画どおり整備を行い、当初の目標を達成することができた。

3. 目標を達成するために行う事業（支援措置を活用する事業）

（林道）

路線名	区分	当初計画	実施結果	検証
湯の谷線	[事業期間]	H17年度～H19年度	H17年度～H19年度	事業完了により、法面からの崩土による車線幅の減少が減り、走行性が向上した。
	[事業量]	L=825m	L=825m	
	[事業費]	43,200千円	43,200千円	
	[交付金]	12,960千円	12,960千円	
柱ヶ谷線	[事業期間]	H17年度	H17年度	事業完了により、法面からの崩土による車線幅の減少が減り、走行性が向上した。
	[事業量]	L=274m	L=274m	
	[事業費]	14,400千円	14,400千円	
	[交付金]	4,320千円	4,320千円	
木地川線	[事業期間]	H20年度～H21年度	H20年度～H21年度	事業完了により、法面からの崩土による車線幅の減少が減り、走行性が向上した。
	[事業量]	L=300m	L=400m	
	[事業費]	24,960千円	24,960千円	
	[交付金]	7,480千円	7,480千円	

（市道）

路線名	区分	当初計画	実施結果	検証
鴨部線	[事業期間]	H17年度	H17年度	計画どおり施工できたため、離合困難箇所が解消された。
	[事業量]	L=1,400m	L=1,400m	
	[事業費]	43,000千円	43,000千円	
	[交付金]	21,500千円	21,500千円	
桜井団地宮ヶ崎線	[事業期間]	H17年度～H21年度	H17年度～H21年度	一部事業量を縮小したが、計画どおり離合困難箇所が解消された。
	[事業量]	L=1,300m	L=1,100m	
	[事業費]	177,000千円	161,500千円	
	[交付金]	88,500千円	80,750千円	
菊間松尾立岩線	[事業期間]	H17年度～H21年度	H17年度～H21年度	第2工区は地元関係者との調整が不調に終わったため未実施となったが、第1工区は当初の予定通り実施し、離合困難箇所が解消された。
	[事業量]	L=1,000m	L=350m	
	[事業費]	650,000千円	174,000千円	
	[交付金]	325,000千円	87,000千円	
平山鹿の子線	[事業期間]	H18年度～H21年度	H18年度～H21年度	計画どおり施工できたため離合困難箇所が解消された。
	[事業量]	L=350m	L=350m	
	[事業費]	120,000千円	209,000千円	
	[交付金]	60,000千円	104,500千円	
矢田高橋線	[事業期間]	H19年度～H21年度	H19年度～H21年度	計画どおり施工できたため、今後新都市エリアを軸とした各エリアへの周遊機能が発揮されると思われる。
	[事業量]	L=100m	L=100m	
	[事業費]	160,000千円	260,500千円	
	[交付金]	80,000千円	130,250千円	

4. 目標を達成するために行う事業（その他の事業）

事業名	内容	実施状況
公共造林事業	人工林における間伐の促進を行うため、3 齢級以上 9 齢級以下の人工林に対して間伐を行う。	H17 年度～H21 年度で間伐等を 331ha 実施
活力水源林誘導事業	人工林における下層植生の導入促進を行うため、3 齢級以上 9 齢級以下の人工林に対して強度の間伐を行う。	H17 年度～H21 年度で間伐等を 320ha 実施（面積は、公共造林に重複）
広葉樹導入促進事業	針広混合林の造成を目的として、広葉樹の苗木の樹下植栽を行う。	H17 年度～H21 年度で間伐等を 4ha 実施
未整備森林緊急公的導入モデル事業	整備実施歴のない人工林への間伐・枝打ちを実施する。	H20 年度で間伐等を 2.4ha 実施
里山林の保全・利用促進事業	森林レクリエーション機能の増進を目的として、保全・利用活動に対する支援を実施し、自立的な活動を通じた里山林等の保全・利用を推進する。	未実施
しまなみツーリズム支援事業	しまなみ海道地域の地域特性を活かし、グリーンツーリズム活動を通して、地域間交流の促進に繋がる活動に対して支援を行い、交流促進の動機付けを行う。	しまなみグリーンツーリズム推進協議会への活動支援を行うことで、しまなみ地域の良さを全国に発信するとともに、地域間交流の促進に寄与した。

5. 総合評価及び今後の方向性

本地域再生計画に基づく、林道と市道の一体的な整備により、効率の良い森林整備が行えるようになるとともに、新都市区域を軸とした山間部や島嶼部への周遊機能が向上し、全国的にも大規模の広域合併を行った新今治市の地域間交流の促進に繋がるなど、当初掲げた目標を概ね達成することができた。

今後の方向性として、地方分権が進む中、地域自らの創意工夫による地域再生への取組みが求められており、本計画に掲げた高い水準にある森林機能の維持・向上等、本市が持つ地域資源を最大限活用して、魅力あるまちづくりの創出を図る。

もり まち
ひとに優しい森林づくり・都市づくり交流促進計画 箇所図

